

内容項目	B 親切、思いやり	主題名	思いやりの心をもって
内容項目指導の観点	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。		

①授業者の価値観 ※ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。

授業者が考える

B 親切、思いやり

とは？※この1年間でこの学級の子どもたちに育てたいこと

相手の立場を踏まえて、相手のためになる言動は何か考え、思いやりをもって親切な行為ができる。

②児童観 ※授業者の明確な価値観に基づくこれまでの指導と子どもの学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。

各教科等、さまざまな場面でこの視点で B 親切、思いやり に関わる指導をする

各教科で指導したこと	特別活動の中で、児童と学級目標を立てた。みんなが楽しんだり、仲を深めたりするためには、互いに思いやって、優しい心をもつことが大切であると指導した。国語科の「話し言葉と書き言葉」では、話し言葉と書き言葉は伝える内容は同じでも、表し方の違いで、受け取り手に伝わる印象が変わるということを学習し、コミュニケーションをとる際の言葉を児童が意識して使い分けられるように指導した。
------------	--

その結果、児童は

よさ	思いやりや親切な行為のよさの感じられるようになってきていて、男女の区別なく行動に移せる児童もいる。
課題	行動の裏の損得によって左右されやすい相手のことを考えようとはするものの行動に移せない児童が多い。

実態から求められること(ねらい)＝ここが授業の中心 育てたいのは、判断力、心情、**意欲**、態度

相手の立場や気持ちを考えた上で誰にでも親切な行為を行いたいという意欲を高められるようにしたい。

③教材観 ※授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかに、教材は活用するもの

本時で扱う教材	最後のおくり物
実態から教材のどこを中心に考えさせるのか。	児童をジョルジュじいさんに自我関与させて、親切な行動をとるときに大切なことを考えさせるためにロペー又にお金を渡す（親切にする）際に名前を伏せていた気持ちを考えさせる。 実態からどのように教材を活用するか。 本時は、 補充 深化 統合 をねらう。

④教材分析表 ※中心発問から前後の発問を考える

本時の学習課題	親切にするとき大切なことは何か
---------	-----------------

価値理解：人間としてよりよく生きる上で大切なことであることを理解すること。 人間理解：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解する。

中心発問		意図(他、人、 面 理解)	
ロペー又にお金を渡すとき、ジョルジュじいさんはどうしてずっと名前を伏せていたのか。		親切にするとき大切なこと（相手の立場を思いやって行動すること）について考える。	
発問	意図(他、人、 面 理解)	発問	意図(他、人、 面 理解)
お金を受け取っているときロペー又はどんなことを考えていたか。	お金を受け取ること（親切にされること）に対して嬉しい気持ちだけでなく、見知らぬ相手からの行為には不安や戸惑いといった気持ちもあることについて考えさせる。	ジョルジュじいさんは見返りのない親切なのにどうして幸せを感じていたのか。	親切にしたときの気持ちを考えさせる。

指導方法は **自我関与中心** 問題解決的 体験的

指導の工夫 アンケートの活用、板書の工夫